

第6回 水稻病害虫発生予察情報

令和元年9月19日

調査機関：神戸市西農業振興センター・神戸農業改良普及センター・JA 兵庫六甲
発行：JA 兵庫六甲神戸西営農総合センター

トビイロウンカ発生！

9月11日の調査ではトビイロウンカが西区の調査地区全域で見つかっており、広範囲に発生しています。また、一部の圃場では要防除水準に達している圃場も確認されています。トビイロウンカは発生すると大幅に収量が減少します。

9月25日以降に収穫期を迎える品種（特にきぬむすめ、ヒノヒカリ、あきだわら、もち米等）は下記薬剤による防除を行ってください。9月25日までに収穫を迎える品種（コシヒカリ等）については早期の刈取りを行ってください。詳しくはお近くの支店営農相談員にご相談ください。

薬剤名	10ℓ当り使用量	使用時期	対象害虫	使用回数
スタークル粒剤	3kg	収穫7日前まで	ウンカ類、ツマグロヨコバイ	3回以内
スタークル豆つぶ	250g~500g		ウンカ類、ツマグロヨコバイ	
スタークル顆粒水溶剤	3000倍・60~150ℓ		ウンカ類、ツマグロヨコバイ、	
トレボン乳剤	1000倍~2000倍・60~150ℓ		ウンカ類、ツマグロヨコバイ、イネドロオイムシ、イナゴ類	
なげこみトレボン	水溶性容器10個(500ml)	5葉期以降収穫21日前まで	ウンカ類、ツマグロヨコバイ、ニカメイチュウ第1世代	

☆粒剤と豆つぶの処理時には、水深3cm程度で散布し、散布後は4~5日は必ず止水をしてください。
☆使用の際は収穫期までの期間及び使用回数にご注意ください。

紋枯病が発生しています

病斑が第3葉鞘に発生したら、

バリダシン液剤（収穫14日前までに散布・1000倍液・60~150ℓ/10a・5回以内）を散布しましょう。

～次年度に向けて～

紋枯病が菌核で越冬するため今年の発生ほ場では来年度も発生する恐れがあります。年内に稻株をすき込み越冬菌を減らしましょう。

【9~10月のカントリー荷受け】

コシヒカリ	9月 3日(火) ~ 9月29日(日)
きぬむすめ	10月 1日(火) ~ 10月20日(日)
あきだわら	10月 1日(火) ~ 10月 6日(日)
ヒノヒカリ	10月 8日(火) ~ 10月20日(日)
飼料用あきだわら	10月22日(火) ~ 10月31日(木)

※9月24日(火)、
30日(月)、7日(月)、
15日(火)、21日(月)、
28日(月)は荷受け休業日となります。

☆水稻栽培日誌の記帳を必ず行い、刈取り・出荷の一週間前までにJAの各支店までご提出ください。

第5回 水稲病害虫発生予察情報 令和元年9月3日

調査機関：神戸市西農業振興センター・神戸農業改良普及センター・JA 兵庫六甲
発行：JA 兵庫六甲神戸西営農総合センター 次回調査：9月11日（水）

8/28、第5回水稻病害虫発生予察調査では、ウンカ類、カメムシ類等の発生が増加しています。また、9/3に神戸西地区でトビイロウンカの発生が見られました。発生が無いか注意して圃場を観察してください。

ウンカ類・カメムシ類対策

収穫7日前まで **スタークル粒剤 (3kg/10a)** もしくは **スタークル豆つぶ (250g/10a)** を散布しましょう！

紋枯病対策

株元から上位第3葉の葉鞘に紋枯病の病斑を確認したら、

収穫14日前まで **バリダシン液剤** (500~1000倍液 60~150ℓ/10a) を散布しましょう！

いもち病対策

収穫がまだ先の圃場でいもち病の発生したら適期の防除を行ってください。

収穫14日前まで **フラシンジョーカーフロアフル** (1000倍液 60~150ℓ/10a) を散布しましょう！※ウンカ類・ツマグロヨコバイにも登録があります。

スタークル粒剤と豆つぶの処理時には、水深3cm程度で散布し、散布後は4~5日は必ず止水してください。

トビイロウンカの発生状況について

8/23 北区で、9/3に西区で確認されています。トビイロウンカが多く飛来すると、その吸汁害により出穂期から登熟期にかけて坪枯れ症状（数十～数百株が円形に枯れて倒伏する）が発生し、品質低下や減収の原因となります。

中生・晩生の品種で被害が多く、薬剤による防除が必要になることもあります。発生が疑われる場合には、お近くのJA 営農相談員までご相談ください。



薬剤名	10アール当り使用量	使用期限	対象害虫
スタークル粒剤	3kg	収穫7日前まで	ウンカ類、ツマグロヨコバイ、 カメムシ類
スタークル豆つぶ	250g~500g		ウンカ類、ツマグロヨコバイ
なげこみトレボン	水溶性容器10個 (500ml)	5葉期以上収穫21 日前まで	ウンカ類、ツマグロヨコバイ、 ニカメイチュウ第1世代

水稻栽培日誌の記帳を行い、JA出荷の場合は、刈取り・出荷の一週間前までに各支店へご提出ください。

第4回 水稻病害虫発生予察情報 令和元年8月22日

調査機関：神戸市西農業振興センター・神戸農業改良普及センター・JA 兵庫六甲
発行：JA 兵庫六甲神戸西営農総合センター 次回調査日：8月28日（水）

8月14日、第4回水稻病害虫発生予察調査を行いました。一部に紋枯病・いもち病の発生が見られたほか、カメムシ類などの病害虫の発生が増加しています。圃場観察をしっかりおこない、対策を行ってください。また、台風通過後、冠水・浸水の被害を受けた圃場は速やかに排水を行い、病害の発生に注意してください。

紋枯病の対策について

紋枯病の発生が増加しています。**株元から病斑が上位第3葉鞘に病斑を確認したら予防適期です。**出穂30~10日前に、**モンカット粒剤**（3~4kg/10a）を散布しましょう。



紋枯病の発生の様子

いもち病の対策について

いもち病の発生が確認されています。いもち病の発生が確認された圃場では出穂前に薬剤による防除を必ず行ってください。

カメムシ類対策

出穂2週間前までに畦畔の草刈をしましょう！

※出穂前後の草刈りは、乳熟期にカメムシを圃場に追い込んでしまいます。
カメムシ類を誘引する本田のヒ工は徹底的に除草しましょう。

出穂後5~10日頃、**スタークル粒剤（3kg/10a）** もしくは

スタークル豆つぶ（250g/10a） を使って防除してください。

カメムシ類が糲を吸汁すると斑点米となる恐れがあり、等級落ちの原因となります。
上記薬剤はウンカ類にも効果があります。

台風後の対応について

- ・冠水・浸水被害を受けた圃場は速やかに水を落としてください。
- ・いもち病・白葉枯病等の発生に注意して圃場観察を行い適期に防除を行ってください。

☆農薬の使用に当たっては、ラベル等の記載内容を確認し、農薬使用基準等を遵守してください。

☆**8月25日（日）**から早期コシヒカリのカントリーの荷受けを開始します。

☆**水稻栽培日誌**の記帳を行い、JA出荷の場合は、刈取り・出荷の一週間前までに各支店へ提出をお願いします。

☆JA兵庫六甲のホームページにカラーで掲載させていただいております。

お問い合わせは JA 兵庫六甲 お近くの営農支援センターまで

HPアドレス【 <https://www.jarokko.or.jp/> 生産者の皆様へ→病害虫発生予察情報 をご覧ください】

第3回 水稲病害虫発生予察情報 令和元年7月31日

調査機関：神戸市西農業振興センター・神戸農業改良普及センター・JA 兵庫六甲
発行：JA 兵庫六甲神戸西営農総合センター 次回調査日：8月14日（水）

7月24日、第3回水稻病害虫発生予察調査を実施しました。

今回の調査ではウンカ類などの幼虫も昨年度よりも多く見受けられましたのでウンカ類の発生も今後続くと予想され、注意が必要です。また、紋枯病の発生が若干みられました。紋枯病は、高温時に蔓延します。今後の天候次第で広がる可能性がありますので、圃場をよく観察し、紋枯病の対策を行いましょう。

紋枯病対策

株元から上位第3葉の葉鞘に病斑が上がり始める頃が防除適期です！

出穂30～10日前に（ただし、収穫14日前まで）、

モンカット粒剤（3～4kg/10a）を散布しましょう！

特に昨年度は紋枯れ病の発生が多く、菌が越冬したことによる多発する恐れがあるため注意が必要です。株元をよく観察し、適期の防除を行いましょう！

カメムシ類・ウンカ類対策

一部の圃場ではヒエ類が多く残っていました。ヒエ類はカメムシ類を誘引するためしっかりと除草しましょう。また、兵庫県病害虫防除所によるとカメムシ類の発生が平年よりやや多くなると予想されています。

出穂後5～10日頃（収穫7日前まで）、

スタークル粒剤（3kg/10a）または

スタークル豆つぶ（250g/10a）を散布しましょう！

★出穂14日前までの畦畔の草刈りも忘れずに行ってください。

出穂前後の水管理

①出穂1カ月前には、中干しを終わりましょう！

②中干し後は、間断灌水を行い、根に酸素を供給しましょう！

③出穂前後の各1週間は稻が水を必要とするので、たん水管理をしましょう！

早期落水は未熟粒・死米・乳白・胴割れの原因となるため注意！！！

梅雨明け後、特に気温が上昇しています。

日中の作業はできるだけ避け、水分補給をしっかり行い熱中症防止に努めましょう！

★水稻栽培日誌の記帳を行いましょう！



第2回 水稲病害虫発生予察情報

令和元年7月10日

調査機関：神戸市西農業振興センター・神戸農業改良普及センター・JA兵庫六甲
発行：JA兵庫六甲神戸西営農総合センター 次回調査日：7月24日（水）

今回の調査では病気の発生はなく、ウンカ類が少し見られました。藻の発生が散見され、藻の発生やガス湧きがひどいと分けつ抑制や根傷みの原因となりますので、水の入れ替えや一旦落水する等の管理をしましょう。

今後の天候によっては、いもち病の発生が懸念されますので注意して圃場を観察してください。また、雑草の多い圃場が見られたので、除草対策を行いましょう。

適切な中干しを行いましょう！



田植後の生育状況を確認し、目標茎数(20本)の約8割が確保された頃に、田の表面に小さなヒビが入る程度の中干しを行いましょう。効果は、無効分げつの発生を抑え土壤に酸素を供給し、根を健全に深くのばします。

高温障害対策（白未熟粒対策）

背白・基部未熟対策 穂肥を2~3日遅らせ2回に分けて施用し、出穂1週間以降の入水は夕方から行い、夜間の水温を下げるなどの対策をとりましょう。

乳白対策 もみ数を減らすため、中干し終了時期を5日程度延長しましょう。また穂肥を2~3日遅らせ2回に分けて施用しましょう。

今後の水管理について

中干し後の水管理は間断灌水で、出穂前後1週間は湛水状態を保ち、それ以降はもみを充実させるため飽水管理(足跡に水が残る程度)を行いましょう。

雑草対策！※詳細は水稻栽培暦を参照

雑草・藻の多発田では、肥料分が吸われてしまったり、稻の生育を抑制しますので対策を！畠際に多いキシュウスズメノヒエ、イボクサ、クサネムは、あらかじめ手取りで除草した後に除草剤を散布しましょう。

☆ 中干しがまだの圃場…【サンパンチ1キロ粒剤】移植後15日～収穫60日前まで。

☆ 中干し時期の圃場…【バサグラン液剤】移植後15日～55日（ただし収穫50日前まで。）落水散布又はごく浅く湛水して散布。

カメムシ類対策～早期コシヒカリは草刈りの時期が大切！～

出穂2週間前までに、水田周辺のイネ科雑草の草刈りを完了！

時期が遅れると乳熟期にカメムシ類を田んぼへ追い込んでしまうので注意！！

出穂後5～10日頃、スタークル粒剤（3kg／10a）もしくはスタークル豆つぶ（250g／10a）で防除しましょう。ただし収穫7日前までです。

☆水稻栽培日誌の記帳を行いましょう！

第1回 水稻病害虫発生予察情報

令和元年7月3日

調査機関：神戸市西農業振興センター・神戸農業改良普及センター・JA 兵庫六甲
発行：JA 兵庫六甲神戸西営農総合センター

今年も水稻病害虫発生予察が始まりました！管内の圃場を巡回し、9月上旬まで2週間に1度、6回の情報を届けする予定です。次回調査日：7月10日（水）

6月26日(水) 病害虫発生状況

今回の巡回では、病害の発生は見られず、一部の圃場にヒメトビウンカ・カメムシ類の発生が見られました。例年に比べ5月から降水量が少なかったことから例年より害虫の発生が多めになっていたと考えられます。今後の発生に注意してください。また近畿地方では、今後平年並の降水量となる見込みで、降雨が続くといもち病の発生が拡大する恐れがあります。気象情報を確認して、適期に防除を行いましょう。また、置苗はいもち病の感染源になりますので、移植後には早期の持ち出しを徹底してください！

一部の圃場ではジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）の発生も見られています。発生地域の拡大を防ぐためにも、適切な防除を実施してください。

商品名	適用病害虫	使用時期	10aあたり使用量	使用方法	使用回数
スクミノン	スクミリンゴガイ	収穫60日前まで	1～4kg	散布	2回以内
スクミニベイト3	スクミリンゴガイ	発生時	2～4kg	散布	有機JAS対応

※湛水状態で散布し、3～4日間は落水やかけ流しをしないでください。

とりこぼし雑草の防除を行いましょう！

一部圃場において、藻類の発生やホタルイ・キシュウスズメノヒエ・コナギ等の雑草の発生が見られました。手遅れにならないよう、適期に防除を行いましょう！

商品名	適用雑草	使用時期	10aあたり 使用量	使用方法及び特徴	使用回数
サンパンチ 1キロ粒剤	水田一年生雑草、ホタルイ、 アオミドロ・藻類による表層 はく離、クロウワイ、オモダカ	移植後15日～ ノビエ3.5葉期 (収穫60日前まで)	1kg	湛水状態で散布	1回
バサグラン 液剤	水田一年生雑草(イネ科 雑草を除く) ホタルイ、クサネム、オモダカ、クロ ウワイ	移植後15～55日 (収穫50日前まで)	500～700ml (散布液量70～100L)	落水後散布 散布後入水まで3日あける。 液剤は高温時葉害注意。 ※イネ科雑草には効果なし	2回以内
クリンチャーバスME液剤	ホタルイ、水田一年生雑草、 オモダカ、クロウワイ、キシュウスズ メノヒエ	移植後15日～ ノビエ5葉期 (収穫50日前まで)	1,000ml (散布液量70～100L)	落水後散布	
モゲトン粒剤	ウカクサ類、藻類(アオミドロ・ア ミドロ)	収穫45日前まで	2～3kg	湛水状態で散布	3回以内

- 農薬の使用にあたっては、必ず農薬容器、袋のラベル等の記載内容を確認し、適正な方法で使用してください。
- この内容は令和元年6月27日現在の登録適用に基づいて記載しています。

今後の水管理

田植後の生育状況を確認し、目標茎数の約8割が確保された頃に、田の表面に足跡が残る程度の中干しを行いましょう。土中へ酸素を供給し、根を健全に保ちます。

また、今後の気温の上昇により、ガスが湧きやすくなります。ひどい圃場については2、3日落水し、ガス抜きをしましょう。

☆水稻栽培日誌の記帳を行いましょう！

お問い合わせ先
神戸西営農総合センター
[TEL:078-961-1277](tel:078-961-1277)